

地デジ導入計画 Vol.1

NOTO TO

基礎知識編

オ リンピックも間近に迫り、話題の地上デジタル放送を既に楽しんでいる家庭や、これから導入しようという家庭も多いのではないのでしょうか？

能登町有線テレビは、地上デジタル放送の電波を送信していますが、最近「デジタルテレビを買ったがデジタル放送が映らない」といった問い合わせが増えていきます。

そ こで、これから地上デジタル放送を導入しようとしている皆さんに、ぜひ知ってほしい情報などを数回にわたってお知らせします。

Point ((1))

完全移行まであと3年

(なぜ地上デジタルなのか)

地上デジタル放送の目的は「放送サービスの高度化」と「周波数(電波)の有効活用」です。

地上テレビ放送のデジタル化によって、ハイビジョンによる高画質・高音質な映像・音声サービスのほか、双方向やデータ放送など高度で多様なサービスの提供ができるようになります。

また、放送や通信に使える電波は無限ではなく、一定の周波数に限られています。現在の日本では使用できる周波数に余裕がまったくないという状況です。デジタル放送では大幅にチャンネルを減らすことができ、空いた周波数をほかの用途に使うことができるようになるのです。

2011(平成23)年7月24日までに

(アナログ放送の終了)

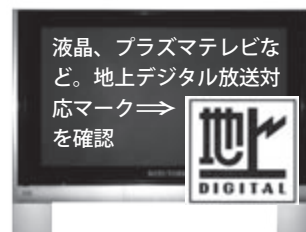
2001年の電波法改正によって、アナログ放送による周波数の使用を10年以内に停止することが決まりました。これによって法律施行日(2001年7月25日)から起算して10年目の2011年7月24日がアナログ放送の終了する期限となりました。停波の具体的な方法は、今後国において検討が進められます。

(今使っているテレビは)

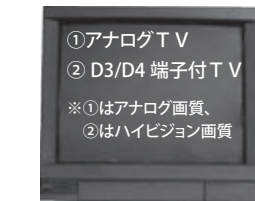
現在使用しているアナログテレビは、デジタルチューナーやデジタルチューナーを内蔵した録画機器を使用することにより、地上デジタル放送を視聴することができます。

(地上デジタル放送を見るには)

1. 地上デジタル放送対応テレビに買い替える。



2. デジタルチューナー、デジタルチューナー内蔵録画機器などを買い足す。



デジタルチューナーまたはデジタルチューナー内蔵録画機器

Point ((2)) 導入の鍵は宅内配線

(地デジが映らない?)

地上デジタル放送対応テレビを購入して、取扱説明書のとおり設定しても映らない場合、考えられる原因は「宅内配線」にあります。

その代表的な例として①分配器やブースター(増幅器)がデジタル放送(高い周波数帯域)に対応していない②配線に細いケーブルが使われている③接続部分に腐食していたり外れかかっているなどの要因があります。

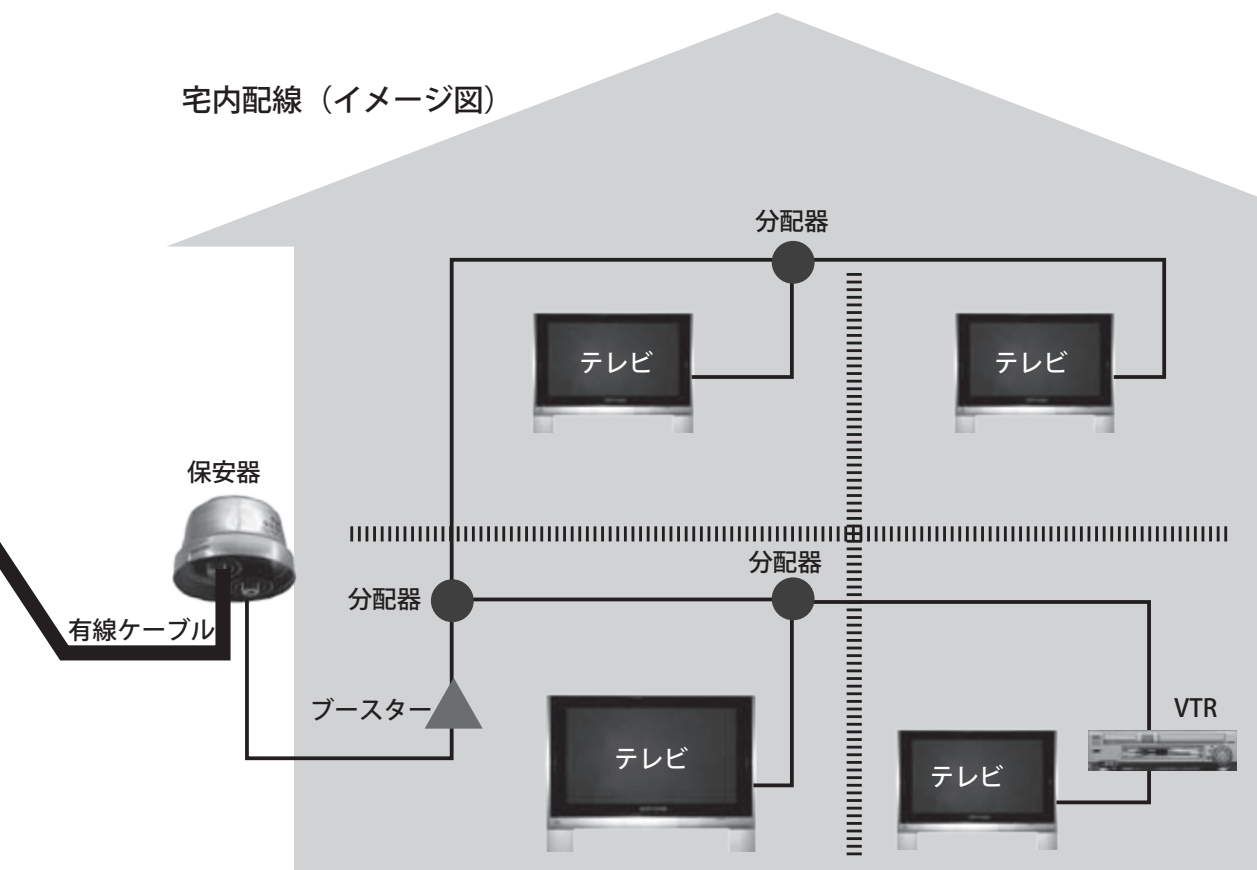
症状としては、アナログ放送は見られていてもデジタル放送が映らないことのほか、1階が映って2階が映らない、チャンネルの一部が映らない、画像が乱れたりするなどがありません。

宅内配線が原因で地上デジタル放送が映らない場合は、宅内配線の見直しやブースターの交換が必要になりますので、テレビ購入店や能登町電器商業組合加盟店などにご相談ください。

広報情報推進課は、連絡を受けて保安器や家庭内の電波の測定には伺いますが、保安器の電波レベルの確保までしか行いません。

宅内配線の工事に関しては、ご自身の発注、負担になります。

宅内配線(イメージ図)



有線テレビの管理

加入者の管理

用語解説

保安器 有線テレビの伝送路から各世帯に引き込みするための機器。雷などの強電圧を遮断する役目もあります。ここまでは有線テレビの管理となります。

分配器 電波信号を分ける機器。2分配器、4分配器などがあり、分配するほど信号は弱くなります。ビデオなどの録画機を経由してテレビにつなぐ場合も2分配になります。ブースター 配線の長さや分配で弱くなる信号を増幅する機器。

配線ケーブル 宅内のケーブルは5C(外径7.7mm)という規格が標準です。ケーブルの長さ15mで、2分配したのと同じ程度信号が弱くなります。これより細いケーブル(4C、3C)は使用しないでください。

接続端子 テレビや分配器への接続は、直付型(写真左)ではなく、電波の漏れや雑音を拾いにくい接続型(写真右)を使用してください。



地 上デジタル放送について詳しく知りたい場合は、広報情報推進課(☎761-8301)までお気軽にお問い合わせください。また地デジに関する出前講座(15頁参照)もあります。グループでの申し込みがあれば、職員がいつでもどこでも説明に伺いますので、ぜひ活用してください。

黄綬褒章

のぐちなおひこ
農口尚彦さん(75歳・四方山)

能 登杜氏・農口尚彦。その名前は、山廃仕込み吟醸酒の第一人者として全国にとどろく。その農口さんが今年春の褒章で業務に精励した模範者に贈られる黄綬褒章を受章した。一昨年11月の「現代の名工」受章に続く今回の褒章受章について「先輩、お客さん、経営者など素晴らしい人との出会いがあって育てられた。職人として今までやってこれたということは、酒造りが自分に向いていたのかなと感じている」と話す。

「先代の苦勞が自分で花開いた」という農口さんは、祖父、父と3代にわたる杜氏の家系。16歳で酒造りの世界に飛び込んでから60年近く、酒造り一筋に励んできた。「酒造りは自然が相手だけに試行錯誤の連続。だからこそ一年一年の経験を積み上げていくことが大切」と語る農口さん。近年は講演の依頼も増え全国を飛び回っているという。自分が作った酒をお客さんが飲んで、評価してくれる。杜氏はとてもやりがいのある仕事。これからも酒と正直に向き合っていきたい。能登が全国に誇る名杜氏は、75歳となった今も酒造りへの情熱をその胸にたぎらせている。



これからも、酒と正直に向き合っていきたい。

大切なのは人間教育、すべては未来をつくる子どもたちのため。

瑞宝双光章
ふかみしげる
深見 繁さん
(77歳・柳田)



柳

田中学校長を務めるなど48年の振興発展に尽力した深見繁さんが、このほど瑞宝双光章を受章した。37年の教員生活では派遣社会教育主事として地方教育事務所にも勤務するなど地方教育行政に貢献。公民館を拠点とした生涯学習・スポーツの普及にも努め、人々が集い語らう場を提供し、元気に過ごせる地域づくりを支援してきた。

教員を退職後、その豊富な経験と指導力が評価され平成4年に旧柳田村教育長に就任。子どもたちへの教育の質を向上すべく、村立小学校8校の統廃合実現へと力強く導いた。「人間教育の大切さを訴え、世界に羽ばたく子どもたちを育てたかった」と当時を振り返る深見さん。現在も日課であるウォーキングを通じて、健康で明るい生き方を実践し続けている。

鳳

寿荘介護長の竹口延子さんは、常に誠実な心で施設の利用者を温かく見守ってきた。介護の仕事に携わり40年あまり、その長年の功勞が認められ瑞宝単光章を受章した。「周囲の人たちの支えがあったので受章だと感謝しています」と喜びを語った竹口さん。利用者の皆さんを一番大切な人と心に置いて、利用者の健康管理はもちろん、施設職員の体調にも気を配りチームワークを第一に努めてきたという。

求められる介護について「どんなに深い知識や優れた技術を持っていても、そこに心がなければ意味がありません。相手の人格を尊重することで言葉一つのかけ方も変わります」と話す竹口さん。地域に信頼され、喜ばれる施設づくりを目指し、今日も竹口さんは「優しい笑顔」でたくさんの方々の心を和ませている。

地域に開かれ、信頼される施設を。誠実な心で喜ばれる介護を。

瑞宝単光章
たけぐちひろこ
竹口延子さん
(58歳・鶴川)



公民館通信

こうみんかんつうしん

第10号

松波公民館編

内浦福祉センターの中にある松波公民館。1階には事務所と調理室、和室や図書室は2階に完備されています。28の町内を対象に活動を行う松波公民館を紹介します。



昨年10月に開催した環境美化ウォーキングには60人が参加して、町内3.5kmのコースをきれいにしながら散策。

また、地元の人を講師に招き、夏祭りに合わせて子どもたちを対象に行われる「横笛教室」や、季節の旬な食材を楽しむ「男性の料理教室」など、ふるさとにある大切なものを取り上げた行事も多数開催されています。



男性の料理教室で「筍づくし料理」に挑戦中！調理のあとに開かれる和やかな試食会も参加者の楽しみの一つです。

参加者からの「ありがとう」のために

松波公民館では約80人の公民館活動推進員の協力によりさまざまな事業が行われています。地域からの意見を生かし、創意工夫を重ねながら少子高齢化の進む地域の公民館活動に対して前向きに取り組んでいます。

館長の表威さんは「青年団や子ども会などが年々減少していく中、団体として公民館事業に参加する機会がなくても、個々に若い世代の人たちが集まることのできる公民館を目指していきたい」と話します。この仕事のやりがいについて尋ねると「ひとつの行事が無事に終わり、参加者の皆さんから『また次楽しみにしとるね』と声をかけられると、よりよい行事を企画していきたいと感じます」とのこと。松波公民館は「公民館があるからこそ体験できた」といわれるような、参加者の心が豊かになる事業をこれからも求め続けていきます。



能登町立松波公民館
字松波13-77 ☎72-0819
■地区世帯数1,011 ■人口2,653

故きを温ね新しきを知る！

15種類のサークル活動が行われている松波公民館。毎日のように子どもたちの声が響き、地域の皆さんがこの公民館を利用しています。また、公民館主催行事も年間を通して活発に行われています。中でも参加者にとっても好評を得ているという「ふるさと教養講座」は、町内や近隣市町の歴史や文化について学んでいます。地元の民話にまつわる史跡を見学するなど、参加者どおしの親睦を深めながら毎回楽しく開催されています。郷土愛を育み、語り継がなければならない大切なものを再確認することができる有意義な行事です。



能登に伝わる有名な民話「引砂のさんよもん」の塚跡前で、講師の説明を聞く参加者。遠い昔に思いを馳せます。

松波地区では数年前から社会体育大会に変わり、レクリエーション活動が開催されています。昨年はごみ拾いをしながら町内を歩く環境美化ウォーキングと、ニュースポーツ体験が行われました。両種目合わせて約100人が参加し、手軽な運動で爽やかな汗を流しました。

●松波公民館で楽しめる教室・サークル

教室サークル名	開催日	教室サークル名	開催日
高砂合唱サークル	第2・4金13:30	水墨画教室	第1・3日13:30
カラオケ教室	毎週水19:30	囲碁教室	毎週水13:30
生花教室	第2・4土13:00	書道教室	第2・4火19:00
三味線教室	第2・4木9:00	韓国語教室	毎週火19:30
もちの木読書クラブ	毎月1回	グラウンドゴルフ	毎日13:30
松波歩こう会	毎週日6:00	ボランティア	第1・3火9:00
ラジオ体操友の会	毎日6:30	いわかがみ会	
唐獅子太鼓教室	毎週金19:30	松波史談会	毎月14・28日14:00

能登ごいた保存会会長

洲崎一男さん (63歳・藤波)

Susaki Kazuo

日本を代表するゲームへと進化している
伝承娯楽「ごいた」。これからも普及
のために努力を惜しまない。

ゲームの祭典で最優秀賞

ボードゲームなどアナログゲームの大イベントである「ゲームマーケット2008」。4月27日に東京都浅草の産業貿易センターで開催されたこのイベントに伝承娯楽「ごいた」が紹介され、参加者の投票によるゲームマーケット大賞(シュビレッタ賞)を受賞した。

今回の出版について、保存会会長の洲崎一男さんは「保存会会員がインターネットで発信した『ごいた』が東京のゲー

ム研究者の目に止まり、東京支部が設立された。その支部長が『ゲームマーケット』の主催者だった」と語る。

イベントには、保存会から5人がインストラクターとして参加し、144人が「ごいた」を体験したという。「待ち時間に『ごいた』や『能登』の話がゆっくりできればと考えていたが、大盛況で休む間もなく教えていた。それでも体験した人は相当楽しんでやっていたと思う」と振り返る洲崎さん。シュビレッタ賞の受賞について、最初は「わざわざ能登から出てきたので義理での受賞だろう」と



思ったというが、担当したスタッフも驚いたということから「実はすごいことかもしれない」と感じたということだ。

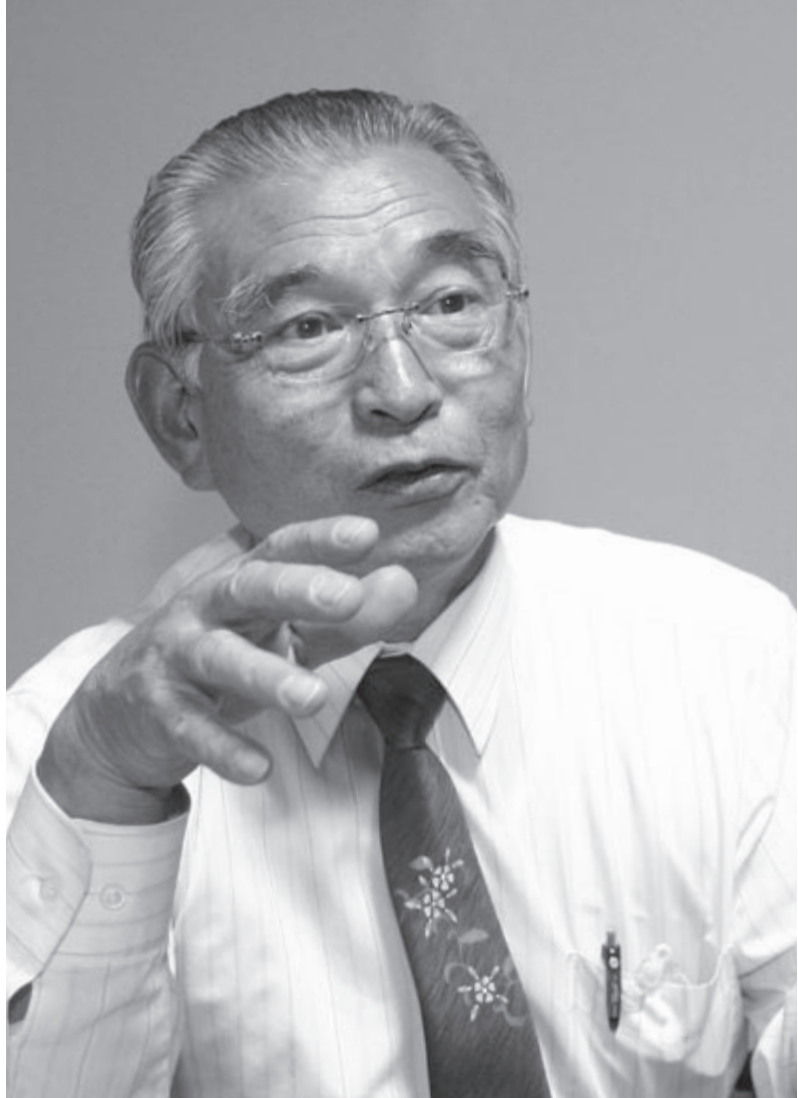
二人一組というゲーム性

「ゲームマーケット」はゲーム制作者、販売店、愛好家など約1350人が全国から集うアナログゲームの祭典。その中で最もおもしろいゲームとして「ごいた」が選ばれたということは、ゲームとしての魅力が「ごいた」にあるということの証しだ。



5月17日に宇出津公民館で開催された「ごいた選手権大会」には20代から80代までの愛好家44人が参加し熱戦を繰り広げた。公式大会は年6回(奇数月)開催され、年間ランキングや番付などが発表されている。

大会の結果は①大目政隆・笹田良雄②藪下智康・寺下利禎③桜井幸太郎・新出弘、上野峰喜・荒木 諭



「『ごいた』の魅力は、1ゲームが早いこと。勝ち負けが早いので遊ぶ回数も多くなる。そして『二人一組でゲームを行う』ということがマージャンや将棋とは決定的に違うところであり、これだけしつかりしたゲームはほかにないと思っ

「町文化財への指定、商標の登録、そして今回のシュビレッタ賞の受賞など、百数十年もこの地に伝えられてきた伝統と保存会の地道な活動が、今ようやく形になってきた。これらをどう生かすか、今後数年間で勝負だと感じている。保存会の皆さんと一緒に考えていきたい」と話す洲崎さん。ゲームマーケット主催者からも「『ごいた』は日本3大ゲームに成りうる」とまでいわれているという。

「ごいた」真の普及のために

洲崎さんによると現在の保存会の最終目標は二つなのだという。「一つは地元の愛好家を増やすこと。『ごいた』を地元の文化として子どもたちに教えた



年々来場者が増加しているという「ゲームマーケット」。今年は2フロアに100以上のブースが出展し、オークションやパズル、フリーテーブルなども用意された。「ごいた」は伝統ゲームとして紹介され、開場時から常に人だかりができていた。

能登杜氏組合能登町支部「きき酒研究会」
天下一品!能登杜氏の技を競う

今年の新酒がずらりと並ぶ「きき酒研究会」が5月20日、内浦スポーツ研修センターで開催され関係者30人が参加しました。この研究会は能登杜氏の技術向上を目指して毎年この時期に開かれているものです。品評会では支部員の杜氏21人が作り上げた自慢の新酒62点が出品され、色や香りなどを審査基準に出来栄を競い合いました。能登町支部長の西尾宏一さんは「甲乙つけがたい良い酒が出揃いました」と話しました。結果は次のとおりです。▶吟醸酒の部優勝「福千歳」武藤利夫(布浦)▶普通酒の部優勝「手取川正宗」山本輝幸(輪島市)



審査会場には芳醇でふよやかな香りが漂います

はだして田んぼに入り、田植えを体験する児童



真脇遺跡縄文館・古代米田植え
赤米を1本1本丁寧に植えました

真脇遺跡縄文館の古代米田植えが、5月21日に縄文館横の田んぼで行われ、真脇小学校1年生から6年生36人が赤米の苗を植えました。児童らは3班に分かれて田植えを体験しましたが、昨年も経験している5、6年生は慣れた手つきであったという間に作業を終え、低学年の田んぼを手伝っていました。秋には稲刈りも体験するという児童たち。今年初めて田んぼに入ったという国谷晃汰くん(3年)は「田んぼはヌルヌルだったけど上手にできました」と話していました。午後からは小木小学校の児童が緑米の苗を植えました。

朝採れのイチゴを使ったイチゴミルクが振る舞われました



赤崎イチゴ狩りと苺一会
真っ赤で甘〜いイチゴに大満足

露地栽培のイチゴ狩りを楽しむことができる赤崎イチゴ園。今年も5月中旬から最盛期を迎え、町内外からたくさんの方が訪れました。赤崎のイチゴは「宝交早生(ほうこうわせ)」という品種で寒冷地の露地栽培に向き、甘みが強く、果実が柔らかいという特徴があります。訪れた人は、おいしそうなイチゴを摘み取って食べたり、お土産用にパックに摘めたりしながらイチゴ狩りを楽しんでいます。5月17、18日には赤崎海岸で恒例のイベント「苺一会」も行われ、訪れた約1,600人が能登の味覚を満喫していました。

北河内ダム現場見学会
きたかわちだむ♥がんばれ!

▶工事を励ますメッセージを書き込む児童もいて、関係者も喜んでいました

▼タワークレーンがコンクリートを運ぶ姿に見入る児童



平成23年3月の完成を目指し建設が進められている北河内ダムの現場見学会が、5月22日にダム建設現場で行われました。見学会には地元五十里と北河内の住民約30人と柳田小学校3年生28人が参加しました。参加者は、工事関係者からダム工事についての説明を受けたあと、実際に工事現場を見学しました。その間に、児童たちは完成したダムの水位測量に使用されるコンクリート管6本に思い思いの絵やメッセージを描きました。見学会に参加した地権者の一人は「3年前までこの場所で田んぼをしていたことを思うと寂しい気持ちもあるが、このダムが地域を守って皆さんが喜んでくれれば地権者として嬉しい」と話していました。

5月

まちの出来事

能都RC・おおとり会ヤマメ放流
自然に触れ、笑顔あふれた一日

5月22日、宮地地内の宮地川で能都ロータリークラブの会員約30人と社会福祉法人おおとり会のメンバー25人がヤマメの稚魚約2,500匹を放流しました。クラブが主催するこのヤマメ放流は今年で通算23回目となり、昨年に引き続きおおとり会を招き行われました。おおとり会の職員は「作業ばかりではなく、たまにこんな日があるとみんな本当に喜んで」と笑顔で放流するメンバーを見守っていました。

このあと、ロータリークラブ会員が能都地区の河川2カ所で約2,500匹の稚魚を放流しました。



交代でヤマメを放流する参加者

インドネシア漁業研修生歓迎会
日本とインドネシアの架け橋に

インドネシア漁業研修生歓迎会が4月30日に県漁協小木支所で行われ、実習生や船主らが今年新しく研修生となった20人を励ました。中型イカ釣船に乗り込む漁業研修生の受け入れは7年前から行われており、今回の受け入れで合計95人となりました。歓迎会では、漁協小木支所の杉本参事が「早く日本の生活や仕事に慣れてください」と研修生を激励し、研修生を代表してドゥイ・シスワンディさんが「先輩たちに負けなように一生懸命研修します」と日本語で決意を述べました。

研修生は6月から実際に船に乗り込み、実務研修を行います。



日本語で意気込みを語る研修生代表のシスワンディさん

優しく声を掛けながらケアをする参加者



宇出津病院ふれあい看護体験
優しい笑顔には笑顔が返ってくる

5月13日、公立宇出津総合病院では高校生7人が看護師の仕事体験しました。5月11日から17日までの「看護週間」に合わせて実施されたふれあい看護体験。辞令交付式では、小森院長が「病院での主役は患者さんです。今日はいい脇役になってください」と呼びかけました。7人は白衣に身を包み、シーツ交換や血圧測定、リハビリ介助など看護業務を体験しました。看護師という職業に以前から興味を持ち、今回が2度目という生徒も数人参加していました。実際の医療の現場に触れ、自分たちの将来への道を考えるよい経験となったようです。